

多可町総合教育会議要旨録

令和2年度 第1回

1. 開催日 令和2年10月22日(木)午後3時30分～

2. 場 所 多可町役場 大会議室

3. 出席者

町長	吉田 一四
教育長	岸原 章
委員	熊田 正博
委員	岩田 光代
委員	安藤 和志
委員	木俣 美代子

4. 陪席者

企画秘書課長	谷尾 諭
教育担当理事兼教育総務課長	宮原 文隆
学校教育課長	藤本 志織
こども未来課長	足立 貴美代
企画秘書課副課長	奥村 祐司
教育総務課副課長	高橋 敏
教育総務課課長補佐	山本 聡

日程第1

会議録署名委員について

日程第2 協議事項

(1) 子どもたちのより良い教育環境について

日程第3 その他

(1) 今後の総合教育会議開催について

第2回総合教育会議の開催 令和3年1月下旬頃

【開 会】

町長あいさつ

皆さん、こんにちは。ただ今より令和2年度第1回多可町総合教育会議を開催いたします。本来であればもう少し早い時期に開催させていただき、いろいろな話を聞かせていただかなければいけなかったのですが、ご存知の通り今年度当初から、新型コロナウイルス感染症防止対策ということで、町の事業も半年間滞っているという状況です。新型コロナウイルス感染症については、相変わらず感染が蔓延しており、落ち着いたというわけではありませんが、何もかも止めておくことはできません。10月になり、席の間隔を広くする、消毒を行う、マスクを着用する、体温を測るなど感染症対策を守りながら、会議、研修を進めています。

昨日、ふるさと創造大学「多可学園」が半年遅れで開講しました。例年ですと80人近い方が参加されるのですが、今年度はコロナ対策として人数を絞って35名の参加となっています。みなさん、待ち焦がれた、できて良かったという気持ちでお集まりいただきました。今後、様々な事業を町としても精力的に進めていきたいと思っております。

教育に関しては、「地域の学校教育のあり方を考える会」の検討委員会（以下、「考える会」という。）を立ち上げ、複数回の会議を重ねております。その報告もさせていただき、町の将来の教育問題についてご検討いただきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

日程第1

会議録署名委員について

岩田委員と安藤委員を指名

日程第2 協議事項

(1)子どもたちのより良い教育環境について

事務局：考える会は、識見を有する方、こども園、小学校、中学校の保護者代表の方、区長会代表の方、学校関係者の29名の委員で構成しています。令和2年7月31日（金）に第1回目を開催し、これまでに3回開催しています。

第1回目は、小・中学校の児童生徒数の現状と今後の推移について、概要説明をしました。第2回目は9月9日（水）に、委員さんの意見をたくさんいただきたいということで、各区に分かれてのワークショップ形式で開催しました。第3回目は10月14日（水）に開催し、前回のワークショップで出てきた小・中学校の現状の課題と問題点について協議しました。次回は、課題を受け、子どもたちにとって望ましい教育環境について協議を行う予定となっています。

今後の流れとしましては、小中学校の課題・問題点からみえる望ましい教育環境について構想を立てていただき、それを実現するためにどうすればいいかをモデルの提案、シミュレーションなどを行いながら考えていきたいと思っております。そして、令和3年12月を目処に意見書を提出する予定となっています。

町長：3回の会議の概要を大まかに説明していただきました。中身について、ご意見、ご感想があればお聞きしたいと思います。私も、傍聴させていただきました。今は、PTA、教職員、区長それぞれの立場での発言が中心となっているという印象を受け

ました。

委員：委員の方の率直な意見が出ているように思います。今後、もう少し、いろいろな方の意見を聞くことが必要だと感じました。

資料では、今後の児童生徒数の推移について示されています。まだ先のことと思わず、今からしっかりと考えておかなければ、あっという間に年数は過ぎてしまいます。準備段階は非常に大切です。多可町全体として、何らかの処置を考えていかなければいけないと数字を見ながらひしひしと感じました。

町長：タウンミーティングで、住民の皆さんに児童生徒数の推移を説明し、多可町の状況を知っていただく予定でした。しかし、コロナ禍で中止となり、代わりに多可テレビで放送させていただきました。結果的に多くの方の目にふれ、この問題について町民の方と共有できたのではないかと思います。

委員：前回、八千代区で小学校の統合がありました。その時も同じような会議をもち、長い時間をかけて統合となりました。しかし、教育委員会は、合併が前提にあるのではないか。形式上、会議をもって意見を集約しているだけではないか。と住民の皆さんからおしかりを受けたこともありました。

今回、考える会が始動し、いろいろな人に話を伺うと、統合するのも仕方がないという意見が多いです。そして、小学校も中学校も一度に考えるとなると大変ですよということもよく言われます。そこで私が考えないといけないと思うのは、長期的な視点で統合を考えるということです。中学校でこのまま生徒数が減少していくと、部活動が成り立たない、クラス替えができないという状況になります。そうなると中学校の統合が必要となってきます。その場合、中学校をどこにするかを検討しますが、中学校だけを考えるのではなく、もう一つ先を見て、児童数も減少していますので、小学校統合も視野に入れて考えなければいけないと思います。小中一貫とはいいませんが、小学校と中学校が同じ敷地内、もしくは近くにある環境が良いと思います。ですから、小学校と中学校を別々に考えるのではなく、今後のあり方について一緒に考える必要があると思います。

考える会では、できるだけ地域の皆さんに意見を出していただいて、みんなで進めていただきたいと思います。

教育長：八千代区の小学校の統合の際も、今回のように考える会を設置し、皆さんに協議していただきました。地域の方からは、学校がなくなると地域が寂れてしまうというご意見がありました。その中で、子どもたちにとってよりよい教育環境とはどういうものなのかということに視点において考えていただきました。考える会でいろいろな議論をし、視察もしていただきました。最終的に保護者の方からアンケートの要望がありましたので、実施しました。結果、統合やむなしの意見が多数を占めましたので、その方向で進んでいった経緯があります。今回もいろいろなご意見を聞きながら、どうすればいいのかを一緒に考えていきたいと思っています。

事務局：八千代区における統合については、多可町小中学校規模適正化基本方針に基づいて検討され、平成28年に統合しました。学校規模適正化の基本的な考えとして、多可町における適正な学校規模は、小学校では複式学級が生じないこと。中学校においては、1学年2学級以上が確保できることと定められています。中学校の生徒数、クラス数を見ていただきますと、令和2年度に八千代中学校で1学年1学級となっています。来年度、加美中学校でも1学年1学級ができます。令和7年度には、八千代中学校の全ての学年で1クラス、令和10年度に加美中学校全ての学年で1クラスになる見込です。令和12年度には、中町中学校でも1学年1クラスができ、それ以降、どの学校においても1学年2クラスになるという見込はありません。こ

ういった状況が予測される中学校においては、1学年2学級以上を確保できる状況でなくなってきたということで、今回、考える会の設置となりました。

小学校について、令和8年度までの見込となりますが、説明させていただきます。小学校のクラス編成は、兵庫県の基準により1年生から4年生は1クラス35人、5、6年生は40人となります。また、2学年で14人以下の場合は、複式学級と定められています。

中区は、中町北小学校の全ての学年で1学年1クラスです。中町南小学校は、令和2年度、5年生が1クラスとなっています。そして、令和8年度には、4学年が1クラスになる見込です。しかし、複式学級になる見込はありません。

加美区は、松井小学校、杉原谷小学校ともに、令和8年まで全ての学年で1クラスの見込です。杉原谷小学校の令和6年度の新入生が7人ですが、令和7年度の新入生が12人のため、複式学級にはなりません。しかし、児童数は非常に減っています。

八千代区は、4年前に統合した時にはすべての学年で2クラスありましたが、令和2年度は1、2、4年生で1学年1クラスとなっています。令和4年度以降は、全ての学年で1学年1クラスとなる見込です。複式学級にはなりません、児童数は減っています。

多可町小中学校規模適正化基本方針に基づくと、複式学級が生じる状況でなく、適正規模となります。しかし、小学校についても状況を知っていただき、中学校とともに考える会で子どもたちにとってより良い教育環境について考えていただきたいと考えています。

町長：適正規模基本方針の中で、小学校においては複式学級が生じないこと、中学校においては1学年2クラス以上であることとあるので、方針は決まっているのではないかとこの意見がたくさんありました。そうではなく、これは考える会を立ち上げる一つの指標であると説明させていただきました。

教育長：町長が言われたように、2つの要件については、こうなったら考える会を立ち上げてみんなで協議しましょうということであって、統合しましょうということではありません。誤解をされた方もいらっしゃいましたが、ご理解いただきました。

委員：中学校に関しては、重大な問題だと思います。児童生徒数の減少のスピードの速さに驚いています。子どものことを思えば、5年、10年後の統合は避けられない問題ではないかと思います。考える会では、統合ありきではありませんが、その方向で話をして、どうするのが一番なのかを考える必要があるのではないのでしょうか。

キッズランドかみは、きた保育所とみなみ保育所が統合してできました。廃園となった両保育所のその後の荒れ果てた様子を見て、心が痛みました。僕たちが学んだところ、私たちが通ったところがこんな衰れな姿になっていると子どもたちに思わせることは、望ましくないと思います。統合という流れになった場合は、跡地の利用についても一緒に考えていただきたいと思います。

学校の今後のあり方については、PTA活動、通学、教科の専門性など様々な問題があります。しかし、子どもは宝です。その宝である子どもにとって一番よい方法を考えることが、私たち大人の役目だと思います。

町長：跡地の有効利用は、なんとか地元の皆さんの思いをくみたいと思うのですが、なかなか難しいのが現状です。みなみ保育所、八千代北小学校については、現在、民間が利用されています。今後の利用方法によっては、子どもたちの思い出とはほど遠い形になることも考えられます。学校ですので、どこかの学校に何らかの形で利用していただきたいと思いますが、なかなか難しい状況にあります。跡地利用につ

いては、難しい問題ではありますが、十分に相談しながら進めていくよう心がけます。

委員：下の子どもが小学生だった時に統合の話がありました。その時は、統合した方がいいのかもしれませんが、地域から小学校がなくなる、自分が通っていた学校がなくなる、子どもの思い出がなどの気持ちが勝っていました。ですので、私はアンケートに「できれば統合してほしくない」と書きましたし、そういう意見も多かったです。その当時は、感傷的になり、前向きになれませんでした。しかし、今となつては統合してよかったと思います。小学校の跡地を見ても、感傷的になることはありません。危機的に子どもの数が減っていくという現実を見聞きしたことで、統合が子どもたちにとって最善であったと気持ちが変わっていききました。

町長：小学校に通われた方も、その地区の方も、それぞれに小学校に思い入れがあります。先日の考える会では、PTAの方から、嫁いで来られた方は、早く統合してほしいと思われている。そこで育たれた方は統合はなかなか受け入れられない。という意見をいただきました。

事務局：こども園に通われている小さい子どもさんをお持ちのお母さんで、たくさんのお母さんの声を聞かれたそうです。すると、街から来られた方は、統合してほしいという意見が多かったそうです。しかし、その方はこれまで暮らしてきた環境が良かったので、子どもたちにも引き続きこの環境で育ててほしいと思っている。他の区の子どもと一緒にすることに抵抗がある。頭では、子どもが減ってきているというのは理解しているが、できることなら反対したいと言われました。

教育長：その方は、松井小学校と杉原谷小学校が一緒になることには抵抗がないが、他の区と一緒にするのは抵抗があると言われました。それを受けて、3区が一緒になることで、初めて多可町が一つになると言われた方もありました。

委員：都会から少し離れた街でも統合はありますが、すぐ近くの、隣の学校との統合です。多可町の場合、地理的に非常に広いです。また、それぞれの区の特徴もあります。ですから、街の統合の場合と、多可町の統合では感じ方が違うかもしれません。だからといって、中区で一つの小学校、加美区で一つの小学校としても、それから何年かするとまた、検討しなければならぬ状態になるのではないかと思います。考える会で、子どもたちにもアンケートをとってはどうかという意見もあったようです。それも意見を集める方法の一つだと思います。

委員：学校を残してほしいというのは、現在学校に通っている子、卒業した人の思いではないでしょうか。その気持ちはよくわかります。しかし、今、2、3歳の子どもが学校に行くのにどういう学校がよいのかを考えた時、クラス替えができない小さな学校でいいのでしょうか。我々が哀愁に浸る。自分が卒業した学校だからとその思いだけで残すのがいいのでしょうか。そうではなく、子どもの将来を見据えて、その子たちが勉強ができる、部活動ができるそういった学校をつくってあげるのが私たちの使命ではないかと思います。小さいお子さんがいる親にこういった学校に行かせたいかを聞くことも必要ではないでしょうか。

委員：私は、子どもに知識的な力ではなく知育的な考える力をつけてほしい。たくましい、強さをもった子どもになってほしい。いじめのない、仲の良い子どもたちになってほしいと願っています。そのためには、少ない人数の中で、大事に育てるのがよいのか。ある程度的人数がいる中で、もまれたり、競争したりするほうがよいのか。今後を考える時には、まず、どんなことを学校生活の中で体験してほしいのか、どんな大人になってほしいのかを明確にし、そのために必要な環境を考えることが必要だと思います。母校を思う、地域を思う。そういった気持ちは大切です。しか

し、過去だけでなく、未来についてもともに考えなければいけません。

考える会では、学力保証のこと、通学のこと、PTA活動のことなどたくさん意見がありました。どの意見もちろ然大切ですが、全てを同じレベルで考えるのではなく、ゆずれないこと、我慢できること、協力すればできることなど枠組みを決めて検討していくことが必要だと思います。

町長：今後のスケジュールを含めてどのように進めていく予定ですか。

事務局：考える会では、統合するのか、しないのか。統合しないのであれば、どういった方法があるのか。通学はどうするのか。そういう議論になりがちです。そうではなく、まずどんな学校にしたいのか、どんな子どもを育てたいのかを話し合います。そして、ある程度柱が決まったところで、事務局からそれに応じたモデルをいくつか提案し、更に議論を重ねて方向性を絞っていきます。最終的な決断は、教育委員会が行います。時間はかかると思いますが、そういった形で進めていきたいと思っています。

教育長：考える会では、統合するのか、しないのかという議論の前に、まず多可町が抱えている問題点、課題を出し合いました。今後は、どんな子どもに育てたいのか、どんな学校にしたいのかをベースとして、そのためにどうすればいいかを委員の方々と一緒に考え、地域の方の意見も吸収しながら進めていきたいと思っています。

また、話し合いでは、人数が減っていく中で、統合以外の方法はないのかという意見もありました。少ない人数で学校運営をしているところの情報を提供したり、委員の方々と一緒に視察に行くことも必要だと思います。そして、多可町でも同じようにできるのか、できないのか。そういったことも踏まえながら考えていきたいと思っています。

町長：免許外とは、具体的にはどういうことですか。例えば、全中学校が2クラスだった場合と1クラスだった場合の先生の数はどうなりますか。

事務局：1学年2学級の場合、2学級×3学年で6学級となります。国で定められた教職員定数に当てはめると、教頭を含めて10人となります。中学校では、道徳を除くと10教科あります。教頭も授業を担当することができますので、なんとか10教科をカバーできます。

1学年1学級の場合、1学級×3学年で3学級となります。教職員数は、教頭を含め8人となります。この場合、どの教科かを免許外の先生が教えることとなります。例えば、社会科の免許しかもっていない先生が、県に申請することで家庭科も教えることができます。これが、免許外となります。先生の中には、2つの教科の免許をもっている方もいますが、1つの教科を教えている場合が多い現状です。今年度、技術については、加美中学校、八千代中学校で免許外となっています。これは、教職員の配置の関係、また、技術の免許をもった教職員は兵庫県下でも不足しているということもあり、免許外の許可がおりています。

来年度、八千代中学校の新1年生は2クラスの予定でしたが、現在、数名の転出があり1クラスになることを懸念しています。3学年のうち、1、2年生が1学級になる現状が見えてきており、心配しています。4学級でも3学級でも教職員数は同じ8名となります。

町長：3中学校とも1学年1クラスだった場合、教職員数は8人×3校で24人になります。統合し、1学年3学級になった場合、教職員数は15人です。となると、統合しない方が教職員の数は多いのではないですか。小規模校3校で、先生が3校を行き来するのはどうですか。

事務局：一人の教員が2校を掛け持ちすることは、原則認められていません。

教育長：学校の掛け持ちについては、先生の承諾を受けられたら、認めていただきたいと県に要望はしていますが、先ほど話があったように現段階では認められていません。

町長：小規模校を選択した場合、免許外にならないよう教職員の数を確保しようとする、掛け持ちをするしか方法がない。それができないのであれば、小規模校の選択ができないということになりますね。

委員：多可町だけでなく、日本全体で少子化が進んでいますが、クラスの定数を少なくするという動きは国や県でないのでしょうか。

事務局：国の基準では、35人学級は小学1年生のみとなっています。兵庫県の施策により、4年生まで35人学級となり、教職員の数が加配されているという状況です。

全国的に、各市町が県を通じて35人学級を国へ要請していますが、なかなか認められないのが現状です。コロナ禍により、より少人数学級の要請が強くなっています。

町長：退職される方、新規採用される方の人数に、大きな差がなく、子どもの数が減っているのであれば、40人学級から35人学級になってもそれほど問題がないように思います。子どもの数が減っているのに合わせて、先生の数も減っているのでしょうか。

事務局：ここ数年を見ますと、大きくは減っていません。

委員：2つの教科を掛け持ちする。2つの学校を行き来するとなると、教職員の負担が大きくなります。必然的に子どもと一対一の関わりをもち、心を通わすような関係をもつことが難しくなるのではないのでしょうか。教職員の適正な数が確保でき、子どもをしっかりと見てもらえる環境が良いと思います。

教育長：例えば、専門の英語を10クラス担当するのと、英語と技術を合わせて8クラス担当するのでは、授業数は少ないですが、後者の方が教職員の負担は大きくなります。また、現場からは、免許外を担当するのは、大変であるということをお聞かせいただきますし、本当にその通りだと思います。

委員：数字上の計算だけではありませんね。教材の準備、後片付け、テスト作り、テストの採点など仕事は多岐にわたります。2つの学校を行き来するとなると、問題が漏れる恐れもあるため、同じ時間にテストを行わなければいけません。卓上では動けても、実際に動こうとするとがんじがらめになってしまいます。また、校務分掌もあります。これは、大規模校であっても、小規模校であっても同じです。とすると、教職員の人数が少なければ、一人が担当する数も増えます。教職員の立場から考えると、教職員の数が少ない方が、負担が大きいと思います。

町長：人数だけを考えてはいけませんね。本日たくさんのご意見をいただきました。考える会の開催回数については未定ですが、令和3年12月までとなっています。今は、それぞれの立場での意見となっていますが、それぞれの問題にウエイトをつけ、協議を重ねていきたいと思っています。経過については、その都度報告させていただきますので、教育委員の皆さまにも一緒に考えていただければと思います。

日程第3 その他

(1) 今後の総合教育会議開催について

事務局：第2回総合教育会議の開催を令和3年1月下旬から2月上旬の予定にしたいと思っています。今年度、多可町教育振興基本計画を作成しています。これは、多可町の教育大綱にも重なるものです。教育大綱につきましては、総合教育会議の中で承認い

ただき、その後、議会に提出したいと考えています。そのため、令和3年1月下旬から2月上旬に開催させていただきたいと思います。

町長：よろしいでしょうか。

委員：異議なし。

(2) その他

町長：では、「その他」です。なんでも結構です。

町長集約：ないようですので、本日予定しておりました第1回総合教育会議の議事日程はすべて終了いたしました。ご協議していただきましてありがとうございました。

【閉会】 委員長 午後5時00分 閉会宣言

令和2年10月22日

④

④